

ネコ用ワクチン接種後のアナフィラキシーに関する研究

吉田愛美^{1,2}、伊藤雅人¹、今西市朗³、水上圭二郎^{1,4}、蔵田圭吾²、内山淳平¹、阪口雅弘¹

¹麻布大学獣医学部微生物学第一研究室,²ITEA 株式会社,³北里大学医学部,⁴理化学研究所

【背景と目的】ネコはイヌにおける狂犬病予防接種のような予防接種の義務はないが、感染症予防のためのワクチン接種が推奨されている。ワクチン接種後にアナフィラキシーを含む副反応が起こることも知られているが、近年の詳細な疫学情報は明らかになっていない。2003年7月より、重大な副作用(死亡、入院等)については農林水産大臣に報告が義務づけられており、その情報はデータベース上に公開されている。本研究では、農林水産省の副作用データベースを利用して、ネコ用ワクチン接種後の副作用の実態調査を行った。また、ワクチン製造過程におけるコンタミネーションの指標である牛血清アルブミン(BSA)の残存量を測定した。

【方法】農林水産省動物医薬品検査所の副作用情報データベース(http://www.nval.go.jp/asp/se_search.asp)より、2004年度から2018年度に報告されたネコ用ワクチンの副作用に関するデータを収集した。収集したデータから、副作用の症状、副作用発現までの時間とアナフィラキシーの発生数の推移を調べた。また、現在日本で流通しているネコ用ワクチン10種に含まれるBSA量を、サンドイッチELISA法を用いて測定した。

【結果と考察】2004年度から2018年度の15年間に報告されたネコ用ワクチンの副作用報告数は合計で316例(うち死亡報告は232例)であり、アナフィラキシーは129例(うち死亡報告は98例)であった。アナフィラキシーを発症した症例のうち、78%で呼吸器系の症状(頻呼吸30%、呼吸困難29%、チアノーゼ21%)、56%で循環器系の症状(虚脱34%、低血圧9%、徐脈9%、低体温7%)、56%で消化器系の症状(嘔吐46%、下痢16%)が見られ、アナフィラキシーの約80%が接種後1時間以内に発現していた。現在日本で流通しているネコ用ワクチンに含まれているBSA量は検出限界(0.4 µg)以下~205 µg/doseと幅があるものの、WHOが定めるヒト用ワクチンの基準値である50 ng/doseを大幅に上回っていた。